

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774000992		
法人名	特定非営利活動法人 オリーブの園		
事業所名	グループホーム ひより		
サービス種類	(指定介護予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府豊中市原田元町2丁目6番26号		
自己評価作成日	2020年12月24日	評価結果市町村受理日	令和3年4月1日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2774000992-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)
訪問調査日	令和3年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホスピスケアを含む医療連携や看取ケア、音楽療法等の特色をもつグループホームです。
“共に生きる”という理念の実践のため「常に何ができるか？」と時代変化に応じた福祉の実践にNPO法人として取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉概念の変革・共生社会を概念に掲げ、地域支援活動等を行う特定非営利活動法人オリーブの園が運営しているグループホームです。駅から徒歩7～8分の交通の便の良い立地条件に建てられ、周囲は閑静な住宅街で、近隣には自治会館、校区福祉委員会等があります。ホーム内は回想法を取り入れ、全体に昭和の落ち着いたレトロな雰囲気です。管理者は「社会福祉概念の変革を理念とし、ふれあい文化の創設をめざします」の理念のもとに、高齢者介護、介護予防、ローカルコミュニケーション活動、ウーマンサポート事業等の事業を展開し、社会貢献に努めています。利用者自治会があり、暮らし中に利用者の声が反映されています。コロナ禍でこれまで積極的に展開してきた地域との交流イベントは出来ない状況ですが、事業所の前での手作りマスクの販売や認知症の啓発パンフレットの配布で地域貢献を続けています。管理者は職員の人材育成にも積極的に取り組み、クラブ活動等を通して学んだ豊かな文化教養をサービス向上に活かしています。職員は成長できる職場環境に感謝と誇りをもっています。利用者は『ここに居てよかった』、家族は『選んでよかった』、職員は『私たちに預けてもらってよかった』というそれぞれの想いの中で毎日の暮らしが継続しているグループホーム「ひより」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない (コロナのため)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない (コロナのため)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない (コロナのため)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に生きる」という理念は「良いケア」に向けて、地域にも利用者にも家族にも職員にも多様な視点で展開させ、実施している。	「社会福祉概念の変革を理念とし、ふれあい文化の創設をめざします」の法人理念のもとに「共に生きる」を実践しています。また理念をもとに毎年目標を掲げ、今年は「心をつなぐ温ったかチーム」として、職員間で共有し、ケアの実践に繋げています。管理者の、利用者・家族・地域社会のために変革し続ける揺るぎない思いは、現場に浸透しています。ホームの名前ひよりには、「心はいつもいいひより」の思いが込められています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナ感染予防のため、地域交流は少なくなったが、コロナ収束後には校区福祉委員会主催の「朝市」に、定期的に出展する計画がある。イオングループ黄色いレシートキャンペーン福祉活動の部に参加し、活動を広く啓発広報している。	コロナ禍で現在は地域とのイベントはできない状況ですが、これまで地域との交流は積極的に取り組んできました。地域に溶け込んだ日常的なつながりができています。コロナ禍でもできることを考え、事業所の前で、ボランティアの手作りマスクの販売や認知症の啓発パンフレットの配布を行っています。ボランティアと購入に訪れた方々が繋がる機会の提供となり、信頼の絆が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本来オレンジカフェで行うべき認知症啓発活動が、コロナ感染予防のため中止となり、代替手段として事業所の前でボランティアさんの手作りのマスクを販売するとともに、啓発パンフレットの配布をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防のため運営推進会議は中止しているが、グループホームの取り組みをニュースレターや冊子を送る等で運営推進会議のメンバーには状況を伝えている。	運営推進会議は、利用者・家族代表、民生委員、校区福祉委員、自治会役員、市社協職員、地域包括支援センター職員の参加で、他事業所に対し、先駆的な取り組みを行ってきました。現在コロナ禍で会議は開催していませんが、ホームの取り組みをニュースレターや冊子で送ること等で会議のメンバーには状況を知らせています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染のピーク時には、マスク・アルコール等の不足があり、市役所には状況を伝え、理解して頂くよう連携に努めた。	法人は、市から「就労支援事業」「シルバーハウジング生活援助員事業」を受託しています。コロナ感染予防対応のための備品不足に関して、市に状況を伝え、連携に努めました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内のQOS(クオリティオブスタッフ)委員会があり、身体拘束については、任命された人権対策虐待防止委員がスーパーバイズを受けながら、研修の組み立てや提供を行い、コンプライアンスを守っている。	身体拘束等の適正化のため、対策を検討するQOS委員会を設置し、虐待と身体拘束の研修を開催しています。研修スタイルも工夫し、不適切ケアを考える研修は、職員一人ひとりQRコードで動画をシェアし学習しました。スピーチロックについても話し合い、アンガーマネジメントの研修も実施しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止には、不適切ケアを積み上げない様なスピーチロック等、日常の小さな接遇にも注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度そのものには使い勝手が悪く問題もあるが、必要のある方にはサポートを進めている。アドバンス・ケア・プランニング等についても学習の機会を提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に重度化についてのケア計画・看取り・医療連携・情報提供の方法等をゆっくり時間をかけ十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、定期の家族会及び家族会役員会等も開催されている。出席できない方にも議事録の配布を行い、それらは運営推進会議でも報告している。	利用者自治会があり、暮らし中に利用者の声 が反映されています。会議は月1回開催し、「食べたいもの」「行きたいところ」「したいこと」など、自由な意見が出され、利用者の様々な希望は、日々の支援の中で実現されていきます。「コンサートに行きたい」との利用者の希望に対し、コロナ禍を配慮し、ホームの中庭でガーデンコンサートを開催したこともあります。 家族会も組織され、年に1回家族会を開催しています。認知症の映画を観る機会を作り、家族の認知症への理解を深めています。管理者は「家族と一緒に伴走する」考えを大切にしています。 コロナウイルス感染予防の備品は家族からもたくさん寄せられました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	組織内の風通しを良くするためのQOS委員会を設け、職員でも意見交換をし、内容を職員会議で公開している。	職員は、定例の職員会議や日常の業務の中で改善事項や課題について話し合っています。また、災害・看取り・人権侵害・人材育成等8つの班のQOS委員会があり、それぞれ自主的に業務改善に向けた取り組みが行われており、職員の気づきを業務の改善へと活かす仕組みができています。 管理者は「職員は貴重な人財」との考えをもち、人材育成にも積極的に取り組み、管理者の「理論に基づくケア」は職員のスキルアップとなっています。また、職員はクラブ活動等を通して学んだ豊かな文化教養をサービス向上に活かし、自身が成長できる職場環境に感謝と誇りをもっています。	今後も、QOS委員会の積極的な活動で、グループホームひよりのさらなる発展が期待されます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	外部の評価機関や研修担当者を置き、各自が向上心をもてるようなアドバイスの可視化に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人材育成の取り組みのシステムがあり、個々人に必要な研修の機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防のため運営推進会議は中止されているが、近くに2軒のグループホームが引っ越して来られており、コロナが収束した時点では相互訪問を行う等も計画している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴等の情報を参考にしながら、要望や不安な事にも意図的に聞き出せるように努め、ラポール形成を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	看取りや経済的な事等、触れにくい話も初期から積極的に実施し、リジリエンスを視野に信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前は介護相談の機会があるため、入居を前提とした具体的支援についての社会資源や情報の活用方法等に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共同生活の中で利用者から教えられる事も多くあり、対等な関係である事を留意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員は本人を支えあうパートナーであり、家族の役割を尊重している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のそれまでの生活歴や地域での暮らしを、グループホーム入居しても継続できるように、手紙・電話・面会・リモート等の支援をしている。	ホーム内は回想法を取り入れ、回想法を取り入れたホーム内は、落ち着いた昭和レトロ感にあふれ、利用者にとって懐かしい雰囲気を出しています。職員は、利用者が大切に思う馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援しています。年末には、利用者の年賀状書きをサポートしました。毎年の餅つきや味噌作りでは、利用者が昔取った杵柄を発揮しています。また、入居してからの馴染みの関係づくりも大切にし「同郷の会」を作っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの認知症のタイプが異なり、BPSD改善の為に共同生活があり、それらを前提として気の合う友達づくりを通して同郷の会等のマッチングに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、他施設等への転居等で利用契約が終了しても、情報提供する事やお亡くなりになってもグリーフケアとして相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人々思いや暮らし方の希望は認知症があり表出する事は難しいが、利用者間での自治会が有り、思いの意向をくみ取れる場や機会となっている。	職員は、日々利用者に関わりながら、思いを積極的に聞くようにしています。毎月の「利用者自治会」でも利用者一人ひとりの思いや希望を聞きとっています。非言語的コミュニケーションを大事にし、利用者との関わりに活かすために、ボイストレーニングも行っています。また、利用者の視野に入ってケアを行う、ユマニチュードの考え方を実践しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護相談・入居相談の時点に、これ迄の暮らし方や生活歴、又、介護サービスを受けている方はこれ迄の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやカンファレンスにおいて現状把握をしているが、ベースは職員の気づきの質が重要であり、異常・問題・課題の早期発見と、報連相によりQOLの向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームでの情報共有のツールとしてカードックス方式を採用している。計画は家族の意見も反映できるように電話での意見交換もしている。計画は健康面・認知症ケア・共同生活行事計画・セルフケア計画等、現状に即した計画作成をしている。	介護計画書は、利用者本人、家族、職員、医師等から収集された情報を基に、担当者会議で話し合い、意見を出し合った上で作成されています。基本は3ヶ月毎に見直し、状態に変化があれば、都度更新しています。作成した計画書は、職員が理解しやすいようにカードックス形式にしています。また、家族にも理解しやすいように工夫し、さまざまな利用者情報と共に示しています。家族からも感想や要望が返されることで「家族と共に作成する介護計画書」になっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は電子カルテの活用によりモニタリングがスムーズであり、定期的なケアカンファレンスで問題の抽出を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近年地域そのものが脆弱化し、変化のスピードも速く、昔ながらのイメージはないものの、校区福祉委員会のイベントを活用し、できるだけ参加を促している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医から医療連携医へと移行するが、24時間365日の相談や医療を受ける事ができる体制がある。	連携医療機関の医師による定期検診は2週に1回ですが、体調不良などがあればその都度往診、24時間365日支援を受けることができます。看護師はホームの管理者でもあり利用者の日常的な健康管理に積極的に関わっています。医師からサマリー、薬に関しては薬局より「薬学的管理指導計画書」を家族に送る体制をとっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師がいる。介護職は個々の利用者の体調について適切なアドバイスや、必要に応じての看護を受けられる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携の中でのMSWとの情報交換を主に、入退院の調整を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携や看取りにおいてtrは加算体制になっており、入居時に終末期ケアや重度化についての説明を行い、医療やケアの選択肢の幅を広げている。	利用者本人や家族への配布用をはじめ、具体的でわかりやすいマニュアルを作成し、ホームでの看取りを実施しています。医師の知見に基づき利用者や家族の意向を確認し、その人らしい最期が迎えられるように支援しています。看取り委員会を作り、指針やグリーフケアについて研修会を開いています。希望があれば音楽葬も実施しています。別れに際し、利用者との思い出フォトを作成し、家族に提供しています。利用者のよりいい表情を家族にみてもらうために、「写真の撮り方」の研修も予定しています。遠方の家族にはリモートで最後の面会をしています。職員は家族が安心納得した看取りとなるように支援し、利用者の人生により深く関われることに感謝しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防署での救命トレーニングを受講しており、急変や事故における報連相の体制もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全員分のライフジャケットや防災頭巾等も準備している。災害時は避難所での感染予防のため施設内での垂直避難も視野に入れている。地震・火災・台風と災害により対応が異なる事や、最近の台風の大きさ等により、今後は予防的な早期避難も検討している。	コロナ禍の中、ホーム独自の訓練を行い消防署に報告書を提出しています。対応マニュアルを作成し、人員体制・指揮系統・連絡網も整備しています。豊中市危機管理課の「災害に備えて」の出前講座も受講しました。備蓄品は一括保管管理、消費期限は表面に明記され職員で共有しています。利用者・職員全員の防災頭巾とライフジャケットを備え、戸袋の開閉確認をしています。水害時は垂直避難で安全を確保することとし、自治会の防災訓練にも参加しています。コロナウイルス感染拡大予防については、QOS(クオリティオブスタッフ)委員会の感染対策班が中心になり、感染対策計画を立てています。玄関横の倉庫には、コロナ関連物品を保管し、感染者が出た時のグッズも準備しています。コロナに関するニュースレターも緊急で作成し、広報にも努めています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員憲章に「思いもは軽く 軽いものは重く扱う」という項目があり、憲章に基づき、その場の状況に応じたさりげなく自然な声掛けをモットーに、一人々の尊重とプライバシーについてのホスピタリティを実施している。	個人情報保護方針を職員間で共有し研修や会議も行っています。不適切な言動が生じた場合は職員間で注意喚起しています。一人ひとりを尊重しプライバシーに配慮して優しい言葉使いで接しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ時の飲み物の選択メニュー等もある。どの洋服を着るか、時計やメガネの修理等、暮らしに中の小さな事も、要望の表出や自己選択として支援している。家族に手紙を書く事や、リモート面会などもサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症の方の気分はその日の体調等によりく変化される為、適宜に支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボディイメージを保つことも尊厳であり、洋服だけでなく髪の手入れ、お出かけ時のTPOに応じたお化粧や靴等もトータルに支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員のファーマーズクラブが野菜を沢山栽培しており、利用者と収穫に行ったりもしている。季節感やイベント感のある食事にも計画している。利用者・職員と一緒に準備、片付けを行っている。	食事は週5日はホームで手作りし、2日は弁当を頼んでいます。利用者は調理の匂いを感じながら配膳を待ちます。一年分の味噌造りの過程は自然に利用者の生活リハビリにも繋がっています。利用者の希望や好き嫌いを把握し、法人の畑で収穫した野菜や果物を添えて彩りを工夫し、メニューに合わせた器で楽しい食事を支援しています。おせち料理や巻き寿司、うな重など行事や季節の料理を楽しんだり、職員とおやつを手作りする時はそれぞれのできることを手伝います。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分確保の量は個々に応じて計算されている。目標の摂取に至る様に個々人に応じて摂取の方法の工夫を行い、摂取確認を申し送りで行われている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科医師の往診があり、口腔ケア計画の指導を受け、計画に基づいて実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄習慣・排泄時間等を把握して誘導している。プライバシーや臭気等にも配慮し、気を使うことなく排泄して頂ける様に努めている。	排泄の記録を作成し排泄パターンを把握一人ひとりのペースに合わせた支援をしています。利用者の様子からさりげない声掛けをしてトイレ誘導をし、排泄の自立支援をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に夏と冬は便秘や脱水を起こしやすく、水分補給計画を立てている。個々人の日々の水分摂取目標を立て、日々摂取状況を確認している。又、緩下剤の調整もモニタリングを行いながら、主治医との情報交換をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は清潔にするというだけでなく、非日常のホリデーリラックスという場でもあり、個人々好きなシャンプーや入浴剤に応じる事や標準ケアから個別ケア迄幅広く対応している。	入浴は週2回、入浴剤を使用します。気の合う利用者同志で一緒に入り入浴を楽しみます。柚子湯や菖蒲湯で季節のお湯を提供しています。浴室は広く浴槽も大きめで転倒防止のマットも敷かれ利用者は不安なく入れます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	離床が良いとされる名のもと職員都合で車椅子に放置する等是不適切ケアであり、認知症をもつ利用者は体も心も疲れやすい。個々のペースに応じた休息が必要となるため適切に状況に応じた活動と休息の生活を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬箱への配置は薬剤師が行っており、服薬時は呼名のダブルチェック等ルチンに従い、誤薬の予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる方は生活リハビリとして清掃・洗濯・たみ・調理の下ごしらえ・おやつづくり等を職員と一緒にやっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状はコロナ感染予防の為外出支援はできないものの、通常はひより号(10人乗り)があり、戸外出かける等リフレッシュの機会を提供している。	コロナ禍で外出が難しい中、職員はホーム内でのレクリエーションを楽しむ工夫をしています。中庭でお茶を楽しんだり夏は水遊びもします。要望に応じて安全な場所への誘導もしています。特に飛行場は利用者に喜ばれています。外出自粛中ですが、味噌作りやコーヒーの豆挽きによる生活リハビリにより筋力は概ね保たれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状況に応じて朝市やスーパーでのお買い物場面を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて支援している。年賀状書き等も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設館内レイアウトに配慮し、空間デザイン(光・温度・湿度・色・音)等して提供している。	門扉から玄関までの長いアプローチは花や植木の緑で包まれ、ベンチや椅子、テーブルが置かれています。止まり木には小鳥の姿を見ることができます。玄関に入るとお香が焚かれ柔らかい香りが広がる中をお雛様が迎えます。ホーム内はレトロな家具や調度品の設えで、飾り物も和の物で統一され昔懐かしい空間づくりとなっています。影絵を使ったスルーズレン療法を取り入れた談話室は利用者のリラックス感を生みます。空気清浄機を設置して臭気・換気対策等衛生管理に努め、居心地良い環境作りを提供しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	DVDをソファで鑑賞出来る事や、談話室もTV設置等行っている。 又、スヌーズレン療法として談話室に影絵等でリラックス空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今迄使い慣れた家具等を持ち込まれて、慣れ親しんだ環境づくりを心掛けている。	居室毎に名前がつけられ表札も掲げています。又暖簾が掛り、屋根瓦のオブジェも付けられています。居室は適度な広さを持ち、手を伸ばせば届く距離に必要なものが置かれています。利用者は好みの整理ダンス、テーブル、椅子、三面鏡、テレビ等を持ち込み自分らしく安心して暮らしています。年末にはホームが用意したカレンダーの中から好きな物を選び居室に飾り、新年に備えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字は分かり易く大きくすることや、伝言等は昔の学校等の様に黒板等を活用している。本人のストレングスをいかして生活リハビリに取り組んでいる。コーナー等には緩衝材を取り付け安全に配慮している。		